

ADATARA

あだたら

特集1 現地レポート

「日本とブラジルの 懸け橋となる」

日系社会
シニアボランティア 武藤 啓一さん

特集2

「世界で活躍する JICA ボランティア」

スリランカ 齋藤有香さん



イベントレポート

おいしく学ぶ、
世界の暮らし
～キルギス編～

イベント告知

ふくしまグローバル
セミナー 2016

[9/24～25開催!!]

VOICE JICA 応援団

二本松市

高橋 秋男さん



EVENT

イベント

\ イベント報告 /
おいしく学ぶ
世界の暮らし
～キルギス編～



平成25年度第1次隊 中沢 舞さん

キルギスの伝統料理

7月4日(月)、約1年ぶりの開催となった「おいしく学ぶ、世界の暮らし」。今回のテーマ国は「キルギス共和国」、キルギスは中央アジアのスイスと呼ばれるくらい自然が豊かで、国土の40%が標高3,000mの山々に囲まれています。

講師を務めた中沢さんはキルギスで2年間青年海外協力隊の村落開発普及員(現:コミュニティ開発)として活動していました。

参加者は、中沢さんの話に耳を傾けながら日本ではなかなかお目にかかれないキルギスの伝統料理ドゥンダマ(キルギス風肉じゃが)、バクラジャンサラダ(茄子のサラダ)、サリヤンカ(酸味のあるスープ)、アプリコットを楽しみました!



2016年秋募集開始します! 応募期間: 9/30(金)~11/4(金)

毎年春募集だけで行っていた「1日体験入隊!」を今回は秋募集でも開催します!

二本松訓練所独自のプログラムを組んでお待ちしておりますので、JICAボランティアに興味のある方はぜひ、お越しくださいませ。

「青年海外協力隊・シニア海外ボランティアを目指す方のための特別セミナー」 1日体験入隊! @二本松訓練所

★10/23(日) お申し込みはインターネットで **JICA二本松**

※要予約 申込期間10/3(月)~10/17(月)

イベントカレンダー

- 9月14日(水) 2016年度2次隊 修了式
- 9月15日(木) 「おいしく学ぶ、世界の暮らし～ブラジル編～」
- 9月17日(土) 結・ゆいフェスタ2016(AOZふくしま)
- 9月24日(土)~25日(日) グローバルセミナー2016
- 10月1日(土) 国際交流フェスティバル2016(会津若松市鶴ヶ城体育館)
- 10月4日(火)~5日(水) 提灯祭りJICAブース出展
- 10月14日(金) 国際理解講座(AOZふくしま)
- 10月23日(日) 1日体験入隊!
- 11月6日(日) 福幸祭JICAブース出展(二本松市)



VOICE

ボイス

～JICA二本松応援団～

このコーナーでは日頃よりJICA二本松を応援して下さっている方にJICAボランティアとのエピソードや期待・エールをインタビューします。

今回は、JICAボランティアの派遣前訓練「所外活動」で大変お世話になっている高橋秋男さん、タカさんご夫婦です。高橋さんは今から8年前(2008年)から、訓練生の所外活動受け入れ先としてこれまで約200名の訓練生を受け入れてきました。高橋さんが訓練生に伝えたいことや訓練生の印象などについてお話を伺いました!



JICAボランティア訓練生の様子はいかがですか?

とても元気よく、畑仕事なんかを手伝ってくれます。

私はもともと、みんなでわいわい騒ぐのが好きで、何事にも積極的に取り組んでいるJICAボランティアの訓練生から元気ももらってます。畑にはパイナップルとバナナ以外ならなんでもそろっているので訓練生もとても珍しい野菜がたくさんあると喜んでます。

高橋さんはこの訓練でどのようなことを伝えたいですか?

「人との縁を大切にすること。そして人を粗末にしない、人を大切にする、人を育てる。」この4つは私自身が訓練生と接するとき大切にしている事です。

人も仕事も十人十色だと思います。その人に何が向いているのかを一緒に探すという姿勢はきっといろいろな国に行っても役に立つと思います。

思い出に残っている出来事はありますか?

新しい訓練生を受け入れるたびに新鮮な気持ちになります。

そしてたった2日間しか一緒にいないのに、2年間のボランティアを終えてからわざわざ会いに来てくれる人がいっぱいいます。

最近では、これから出発する28年度1次隊の隊員さんと最近帰国した25年度3次隊の隊員さんが偶然同じ日に遊びに来てくれました。

また世界中のJICAボランティアが絵葉書をたくさん送ってくれます。どれも大切な宝物です。



JICAボランティアとして活躍する、当時の訓練生たちから多くの手紙が届く。



訓練生から届く色紙は、宝物であると話す。



28年度1次隊訓練生との一枚

特集1

現地レポート

日本とブラジルの懸け橋となる

～福島文化をブラジルへ！ 異国の地で活躍する JICA ボランティア～



平成23年度 日系社会シニアボランティア
派遣国:ブラジル 職種:野球
武藤 啓一さん(喜多方市)



ペルーのソフトボール大会



ボランティアの仲間たち

ブラジルで育んだ2年

私は日系社会シニアボランティアの隊員として2年間ブラジルで日系人の子供たちに野球の指導をしていました。

もともと町役場に務めており、定年を迎える前の年に思い切ってJICAボランティアに応募したのが始まりです。30代のころ1度だけブラジルや南米を訪れたことがあり「いつか戻りたい。」という気持ちを持っていました。

サッカー大国ブラジルで、なぜ野球なのかという考えた時もあります。日系社会のコミュニティーでは、日系人が野球を広めたという思いがあります。だからこそ私は野球の技術を教えるだけでなく、野球を通して日本人の持つ礼儀や物を大切にする心も一緒に学んでほしいと感じていました。

休みの日には、一緒にブラジルに渡った隊員を家に呼んで活動の話や日本料理を作って過ごしていました。60歳を過ぎてこのような出会いがあるとは思いませんでした。



活動は休日を利用して行っていた。



在伯ブラジル県人会事務所



JICAブラジル事務所に日本酒を届けた際の一枚

日本とブラジルの懸け橋

私は、ブラジルでJICAボランティアとして活動する傍らあることをしていました。それはブラジルの福島県人会の協力を得て喜多方ラーメンと、喜多方の日本酒の販売ルートを模索すること。

実はJICAボランティアで活動していたということが、今の活動をするにあたって大きな意味を持っています。JICAボランティアは国と国の関係で成り立つボランティアなので、私がそこで活動していたとなると相手も心を開いてくれます。

ブラジルでも日本酒は親しまれているが、まだまだ馴染みがありません。来年ブラジルの福島県人会は100周年を迎えます。福島県知事も招待されると思うので、ぜひ福島県の日本酒をブラジルで味わってほしいと願っています。

特集2

世界で活躍する JICA ボランティア

～子どもたちの視点で考える授業づくり!～



特別支援学級の先生たちを集めてワークショップを行いました。1校に1学級しかないので先生たちも情報交換をして和気あいあいとしていました。



ウミガメも見れます!



派遣国:スリランカ 職種:障害児・者支援
齋藤有香さん(郡山市)

アーユボーワン!初めまして。スリランカで活動している齋藤有香です。

私の任地は南に位置し、海のシーズンになると多くの観光客が訪れサーフィンやダイビングを楽しめる場所です。私の家からバスで10分、きれいな海が広がっておりタイミングが良ければウミガメを間近で見たり餌をあげたりできます。

私は普段、障害のある児童や生徒が通う特別支援学級を巡回し、先生方にアドバイスをしたり、ワークショップを行ったりしています。学校を巡回する際は、私もスリランカ人の先生と同じようにサリーを着ます。サリーは日本のスーツのようなもので、もちろん現地の先生は毎日着ていて運動もサリーのまま行います。

スリランカの教育は「ノートに書く授業」が多く、特別支援学級でも同じような授業を進めています。しかし、文字を書けるけど読めなかったり、長時間座っていることが難しかったりする児童もいます。そのため、先生たちの困っていることを聞き出すと共に、興味をもって取り組める教材や、ボーリングなど楽しみながら学べる活動を提案しています。少しずつですがワークショップで学んだことや私のアドバイスを取り入れてくれる学校が出てきました。これからも子供たちが楽しめる授業づくりを先生たちと考えていきたいと思っています。



夕暮れもとても綺麗で癒されます。

質問コーナー

第2回目

あなたに とって 〇〇とは?

このコーナーでは、派遣中の隊員や帰国後のOB・OG、JICA二本松のスタッフなど、JICAボランティアとして活躍している隊員や帰国後にJICAで得た経験を通して社会で活躍している方たちに「あなたにとって〇〇とは?」という質問をしました!! 第2回目となる今回のテーマは、「派遣前訓練中に苦労したことと乗り越え方?」です。



「お菓子里に手が 伸びてしまうこと」です。

講義の合間に毎日お菓子をつまんでしまいました。三食+お菓子、確実に太ります。そこで寒天ゼリーを毎日つくっていました。簡単だし、カロリーも控えめだし、一緒に作ると他の訓練生とも仲良くなれるのでおすすめですよ。

「なんといつても 語学が大変」でした。

私が勉強したのはラオ語です。最初、ラオ語が文字と思えず、苦戦しました。また、発音が難しく、何度も繰り返し練習したことを覚えています。難しかったラオ語も、一緒に学ぶ仲間がいたから、楽しく学ぶことができました。また、ラオスでの生活や活動のことを思い浮かべることで頑張れました。



「まわりに 飲み込まれていたこと」です。

集団生活する中で、私個人を見失いかけて苦しくなっていました。そこで外出日はひとりで静かに過ごしました。ある時花を買い部屋に飾ってみると、思った以上にリラックス出来たので、それは訓練日最後まで続けました。小さな気持ちの切り替えが大切だと思います。



福島にゆかりのある

JICAボランティア

2016年度第2次隊

※①出身地 ②派遣予定国 ③職種



青年海外協力隊
みやざき たかゆき
宮崎貴行さん
①郡山市
②バファニューギニア
③PCインストラクター



地元である福島県とも縁の深い協力隊の一員として活動に参加できて本当に嬉しいです。お世話になった方々への感謝の気持ちを忘れず、任国の方々と一緒に自分ができることを精一杯取り組みたいと思います。



青年海外協力隊
おんだ けんじ
恩田健人さん
①白河市
②コロンビア
③体育



大学時代、約一年間の留学し、自分の専門分野を生かし海外で仕事がしたいと考え、青年海外協力隊に応募しました。帰国後は、教師として生徒達に経験したことを伝え、世界や国際協力に興味を持ってもらいたいです。



青年海外協力隊
あべ しょうた
阿部翔太さん
①いわき市
②ニカラグア
③野球



野球には人生、そして世界を変える力がある。黒人初メジャーリーガーのジャッキー・ロビンソンの言葉です。野球の可能性はまだまだある!この信念を持ち、現地の方々に野球の素晴らしさを伝えてきます!



青年海外協力隊
いわき みく
岩崎未来さん
①福島市
②キルギス
③青少年活動



大学時代に海外ボランティアに参加し、その時の子どもたちの笑顔が印象に残り、JICAボランティアに参加しました。キルギスの子どもたちと日本の子どもたちをつなぐ架橋になれるように、笑顔でがんばってきます。

福島県出身ボランティア

市町村別 派遣中隊員数



2016年7月31日現在
合計派遣中:30名 累計:724名

青年海外協力隊				シニア海外ボランティア			
派遣中	27	累計	662	派遣中	2	累計	46
日系社会青年ボランティア				日系社会シニアボランティア			
派遣中	0	累計	10	派遣中	1	累計	5

2016年度第2次隊



青年海外協力隊
遠藤 竜さん
①郡山市
②ヨルダン
③障害児・者支援

私は障害児・者支援の職種としてヨルダンへ行き、知的障害者の支援を行う予定です。途上国内での障害者の権利が向上し、ノーマライゼーションの実現に近づく様、現地の人々と協同しながら活動に臨みたいと思います。



青年海外協力隊
鈴木玲南さん
①田村市
②モロッコ
③理科教育

実験の技術を伝え、理科に興味を持ってもらえるような授業づくりを心掛けていきたいです。



青年海外協力隊
岩田 浩司さん
①いわき市
②マラウイ
③障害児・者支援

私は障害児者支援を通して心の通ったボランティアをしたいと思っています。その為にも、現地の方々と衣・食・住を共にし、現地の方々の文化をよく理解する事に努め、信頼関係を築けるように頑張りたいと思います。

公式SNSラジオ番組のご案内

JICA二本松 公式Facebook



青年海外協力隊の訓練の様子をのぞいてみよう!!

毎日、更新中!

<https://www.facebook.com/jicantc>

ふくしまFM

キミノチカラ、海を越えて
~青年海外協力隊の道~



世界各国で活躍した隊員をゲストに迎え、参加の動機から任地での活動、帰国後のお話を2週に渡ってたっぷり聞かれます。

毎週土曜 / 8:30~8:55

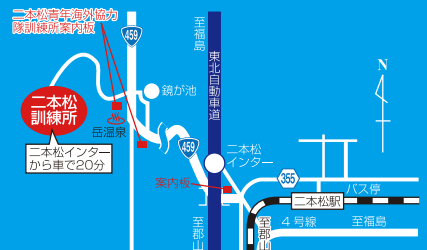
FM Mot.Com

世界も、自分も、変えるラジオ



二本松訓練所の訓練生がつくる番組です。熱い想いが詰まった60分!

第2木曜 / 13:00~14:00
(再放送:第3木曜/13:00~14:00)



独立行政法人国際協力機構
二本松青年海外協力隊訓練所
〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2
Tel. 0243-24-3200 Fax. 0243-24-3214

●本誌に関するお問合わせ
JICA福島デスク 担当:室井(むろい) Tel:024-524-1315 Fax:024-524-8308
〒960-8103 福島市舟場町2-1 (公財)福島県国際交流協会内